

ラグジュアリー

- ファッションの欲望 -



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

京都展

会期:2009年4月11日~5月24日

会場:京都国立近代美術館

主催:京都国立近代美術館

京都服飾文化研究財団

キュレーション:河本信治(京都国立近代美術館)

深井晃子(京都服飾文化研究財団)

東京展

会期:2009年10月31日~2010年1月17日

会場:東京都現代美術館

主催:東京都現代美術館

京都服飾文化研究財団

キュレーション:長谷川祐子(東京都現代美術館)

深井晃子(京都服飾文化研究財団)



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

概要

本展は、17世紀から現代までのファッションをラグジュアリーという視点で切り取りました。

ラグジュアリー、つまり贅沢とは、社会の余剰から生み出される豊かさの一つの形といえるでしょう。古くから、ファッションはラグジュアリーと深く結びついてきました。視覚的に豪華な衣装は、着用者の権力や財力を周囲に示し、一方で、服の機能性の高さや快適性といった身体や感覚に訴える要素や、精神的な喜びを満足させる要素も、現代の私たちに豊かな充足感をもたらしています。さらには、大量消費型社会からの転換を目指している21世紀の今、「一点もの」「リサイクル志向」「ハンドメイド」といった方向性も、ラグジュアリーと深く結びついているのです。

本展では、社会の動きと私たちの価値観を敏感に捉えているファッションを、ラグジュアリーという視座から照射し、再考しました。

出展内容（京都展）

衣装:	83点
写真:	11点
出展品総数:	94点

展示:

ラグジュアリーに深く結びつく要素をもとに、4セクションで構成。

セクション1 「着飾るということは自分の力を示すこと」

（18世紀～現代の服）

セクション2 「削ぎ落とすことは飾ること」(20世紀以降の服)

セクション3 「冒険する精神」(コム・デ・ギャルソンの服)

セクション4 「ひとつだけの服」

（メゾン・マルタン・マルジェラの服）